

# 宇和島市教育委員会会議録

令和4年8月定例会

令和4年8月24日開催

宇和島市教育委員会

## 宇和島市教育委員会 令和4年8月定例会 会議録

1. 開会日時 令和4年8月24日（水） 午後4時
2. 場 所 宇和島市役所本庁 202会議室
3. 出席者 教育長） 金瀬 聡  
教育委員）木下 充卓、高山 俊治、弓削 由美子、  
浅井 敬司、田村 裕子
4. 欠席者 なし
5. 出席職員  
教育部長 片山 治彦、教育総務課長 面川 啓之、  
学校教育課長 大柴 博之、同課指導係長 竹田 雅彦、  
生涯学習課長 杉浦 光信、文化・スポーツ課長 森田 浩二、  
人権啓発課長 大内 真二、学校給食センター所長 児玉 雅人  
  
教育総務課課長補佐 薬師神 司、同課総務係長 山口 真史  
同課主事 新居田 智士
6. 付議事件 なし
7. 説明及び報告事項
  - (1) 令和4年度全国学力・学習状況調査の結果について
  - (2) 「キモチまじわうトコロ相談ポスト」事業について
  - (3) 新伊達博物館基本設計説明会について
  - (4) 人権教育総合推進地域事業研究発表会について
8. 会議概要
  - (1) 会議成立の報告  
○教育総務課長  
教育長及び在任委員の全員が出席されております。定足数を満たしておりますので、本会議は成立していることをご報告いたします。  
それでは、ここからの進行は教育長、宜しくお願いいたします。

## (2) 開会宣言・教育長報告（午後4時）

### ◎教育長

それではただいまから、8月定例教育委員会会議を開催いたします。

お手元に教育新聞の記事をお配りしていますが、こちらは昨日8月23日に中央教育審議会で次期教育振興基本計画のコンセプトや方針の骨子が議論されたという内容を伝えている記事です。4つの基本方針がどうやら示されるようです。

1つは、「日本型ウェルビーイングの向上・共生社会の実現に向けた教育」。これは私達が議論の末に作った、宇和島市教育大綱の基本理念にある、目指す教育の姿というのは、単なる学力ということではなくて、持続可能な地域社会の共創を目指すことだと、ここに重なってくる部分だと思います。

それから、2番目の基本方針として、社会の持続的な発展を生み出す、そういう人材を養成していきましょうということが掲げられるようですけれども、これも宇和島市で策定した教育大綱の基本理念にある、「目指す人の姿」と相当重なる部分もあると思います。

そして3つ目の基本方針は、「地域や家庭で共に学び支え合う社会の実現に向けた教育」。これも2年前に策定した教育大綱の「目指す取り組みの姿」とほとんど重なっていると思います。ここだけ中身を少し具体的に見ると、持続的な地域コミュニティを形成するために、地域と学校の連携・協働の推進を進めていく。コミュニティ・スクールであったり、地域学校協働活動であったり、この辺も打ち出されると思います。

最後に、4つ目として、「計画の実効性確保のための条件整備・対話」です。これについて、ソフト面では、今申し上げたコミュニティ・スクールや地域学校協働活動。それからハード面では、ICTなどが大きく効いてくると思います。

そういったものが、次の教育振興基本計画の方向性になるようですので、ここは少し注意しておきたいと思います。これが昨日の報道です。

歴史の転換点において、次期教育振興基本計画に求められることというのが、この諮問の大きな柱になっています。その歴史的転換点というのが、具体的に何を意味しているのかについては、ちょうど今年が、明治5年に学制が敷かれてから、150年目の年に当たっています。そうすると、大きな意味では、教育の現在地ということで、日本の教育が今向き合っている課題は何かと、そういうことも言えるのではないかと思います。

そのことについて、文部科学副大臣もされていた鈴木寛氏が、「卒近代」の時期を迎えているのだろうと、非常に面白いキーワードを仰っています。

「脱近代」ではなく、「卒近代」。なぜそういう言い方をするのかと言うと、これまでやってきたことを否定してこれからを考えるのではなく、これまでやってきたことは、それはそれで必然として必要なことだったということ。従ってこれまでの150年間の取り組みには敬意と感謝を持った上で、その上で次なるステージに上

っていこうと、そういう意味だと仰っていました。

明治5年は1872年です。今年が2022年なので、ちょうど150年ですが、明治維新があり、そして廃藩置県が行われた後、日本の近代化の実現を目的として、公布されたのが学制でした。

その目標は、明治期においては欧米列強だったでしょうし、大戦後においては専らアメリカだったと、こう言っても良いと思いますが、いわば既に外側に存在している正解に向けて、集団として誰よりも早くキャッチアップする、そういうような取り組みでした。

一律一斉の教育によって、ある意味最高のパフォーマンスを叩き出し、1984年にはジャパン・アズ・ナンバーワンと言われるまでの成果を上げ、この近代化によって、私達は安心して快適で便利かつ効率的な世の中を手に入れたと言っても良いのだらうと思いますが、こういった価値というのは、全ての人に共通する価値であり、目標でありました。それを良しとする共通の価値観も、バブルがはじけるぐらいまではあったのだらうと思います。これまでの教育があつてこそその近代化であり、豊かさが実現されました。

一方、バブル期に目標を達成したことによって、私達はそれまでの目標を失うことになりました。追いついた後の次の目的や目標は、自分達で構想しなければいけなくなりました。多くの人に共通する目標は達成したのですから、次なる目標は1人1人の多様な価値観が尊重されるべきフェーズに入ったわけです。

ところが、ここで躓き、失われた20年、30年という時間を費やしてしまったとも言えるわけですが、私達は余りにもその問題や目標というものが与えられることに慣れ過ぎ、与えられたものに対して一律一斉に正解を目指すというスタイルに過剰適応してしまっていたかもしれません。

自ら目的を作る。多様性を受入れる。そういったものにこれまであまり馴染んでこなかった。そういった状況の中で、「指導」から「学び」への変化は、いわば主語主体が変わることですから、単なる変化ではなくて、革命と言っても良い変化かもしれませぬ。

「一律一斉」から「個別最適」へ。この考え方、価値感、常識の変化というのは、まさにその1人1人の多様な幸福の実現を目指す、教育観のパラダイムシフトが求められているのではないかと、そのように感じています。

そういったことをお伝えした後に、この1ヶ月でどういったことをしてきたかについて触れてみたいと思います。資料の1ページ、2ページをご覧ください。

7月30日から31日にかけて行われた「未来のわくわく架橋事業」は、宇和島青年会議所が主催している事業ですが、宇和島市教育委員会も共催しています。

子ども達の主体的な意志。やりたいという気持ちを地域の大人達が直接子ども達と関わる中で、引き出していく。そういったオール宇和島、チーム宇和島の取り組みの形を初めてトライしたと、そういったものになっております。

そして、8月7日以降は、計7回に渡って、新伊達博物館基本設計の説明会を致しました。8月7日初日は、隈研吾建築都市設計事務所、それから丹青社からも説明に来ていただいております。この中身については、後程また別途報告があると思います。

もう1つ触れたいのは、8月16日以降に地域学校協働活動推進員の方々との懇談会を行っております。

これは、各中学校区毎の4つのグループに分けて、担当者と私でざっくばらんな懇談をするというものです。コミュニティ・スクールと地域学校協働活動。そもそもは校長会からの提案があり、平成27年から始まって、全小中学校を指定するところまで至ったのは2年前ですが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の時期と重なってしまい、なかなか具体的に進めていくというのが難しかった状況がありました。今年からは、コーディネーターの方達とも直接膝詰めで、何のために、どういことをやっていくのかということ意見を交換していく。そして、教育推進委員の方々には、去年はなかなか研修で各学校に入ってもらえないような状況が続きましたけれども、今年は本当に力を入れて、やっていくということで始めています。

また回数を重ねていく中で、状況を報告できる時期が来るのではないかと思います。

### (3) 説明及び報告事項

#### ◎教育長

それでは、本日の議事に入っていきたいと思っております。議事日程の3番目“説明及び報告事項”になりますが、まずは令和4年度全国学力・学習状況調査の結果について、学校教育課からお願いします。

#### ○学校教育課長

3、4ページをご覧ください。4月19日に実施しました、全国学力・学習状況調査の結果についてご報告いたします。

対象学年は小学校6年、及び中学校3年です。教科は国語、算数、中学校は数学です。それらに加えまして、今年度は理科が実施されました。なお、理科につきましては、3年毎の実施となります。

この他に、例年同様、児童生徒と学校に対しまして、質問紙調査が実施されました。

続きまして、教科の結果でございますが、昨年度、小学校は国語、算数共に、愛媛県及び全国平均以上でしたが、今年度は残念ながら国語、算数、そして、新たに加わった理科の3教科全てにおいて、愛媛県及び全国平均を下回りました。中学校につきましても、昨年度と比較し、今年度は愛媛県及び全国平均との差がさらに大きくなっております。

この要因といたしましては、小中学校において、まだまだ全国学力・学習状況調

査に対応できる授業となっていないこと。言い換えれば、依然多くの学校で、知識、技能の定着中心の授業が行われており、思考力・判断力・表現力の向上に繋がる授業となっていないことが考えられます。

この他にも様々な要因が考えられますが、今後学校の教育力向上推進委員会におきまして、質問紙調査の結果と併せて詳細な検証を行い、対応策を検討する予定でございます。

以上で説明を終わります。

#### ◎教育長

こういった結果になったことについての説明をもらいました。

ご質問等あれば、お願いいたします。

詳細は分析結果と併せて報告していただくとして、昨年までの問題と今回の問題を比べてもし違うところがあれば、教えて頂けたらと思います。

#### ○学校教育課長

令和元年度から少し変更がありまして、A問題を知識理解系統の問題、それからB問題を活用と言いまして、思考力・判断力・表現力を問う問題となっております。例えば中学校の数学は、全部で平成30年度に50問あったのですが、令和元年度から15問ぐらいにかなり減りました。A問題とB問題を統合した問題を提出するようになりました。

以上が主な変更点となっております。

#### ◎教育長

それについては、先程課長が仰った、単に覚えている、知っているというだけでは答えられなくて、本当の意味で理解して答えを出せるようになっていないと、なかなか答えられない問題になってきているということですね。

そういった状況も踏まえて、さらに細かな分析を行い、報告できるようにしますという説明でございました。

その他に、ご意見やご感想等があればお願いいたします。

#### ◎全委員

ー特に質問、意見等なしー

#### ◎教育長

それでは2つ目の報告に入ります。

2番目の「キモチまじわうトコロ 相談ポスト」事業についてお願いします。

#### ○学校教育課長

5、6ページをご覧ください。

宇和島市では近年、ヤングケアラーの事案等、児童生徒を取り巻く様々な問題が多くなってきております。

重大な事案に発展する前の未然防止のアプローチとして、「キモチまじわうトコロ 相談ポスト」を行うことにしました。

本年度の6月議会で、静岡県掛川市の実践に関する具体的な提案がありました。そこで学校教育課の担当者が、掛川市の担当者に連絡・相談しながら、掛川市の実践をモデルとして、宇和島市の実態に合った「キモチまじわうトコロ 相談ポスト」を計画いたしました。

事業概要は、児童生徒が毎日持ち帰っているタブレット端末に「キモチまじわうトコロ 相談ポスト」のショートカットを配置します。このアイコンをタップすると、児童生徒はアンケート形式で悩みを相談することができます。

寄せられた相談は、学校教育課の担当者に届きます。担当者が寄せられた内容をスクリーニングして、当該校へ通知いたします。そして、当該校で対応していただくようになります。

それでは、皆様に実際にタブレット端末を使って、体験していただきます。担当の学校教育課指導係長がご説明いたします。

#### ○学校教育課指導係長

タブレット端末実演により説明をする。

#### ○学校教育課指導係長

このような形で、子ども達はSOSを発信します。宇和島市はLTE回線で繋がっておりますので、仮に家にWi-Fi環境が無いお子さんでも、このタブレットがあれば、お家でも、例えば公園でも、学校でも、どこでもこのSOSを発信することができるというのが、この宇和島市の大きな1つの特徴です。

ひょっとしたら、些細なというか、それはSOSではないだろうという悪戯も来るかもしれませんが、100個そういう悪戯があったとしても、101個目に重大事案を察知して、解決に向かうことができれば、これは1つやった価値があると考えております。

今後のスケジュールですが、6ページにありますように、9月2日の校長会にて、事業概要を説明させていただきます。その後9月5日にプレスリリースを打ち、10月3日に子ども達のタブレットにアイコン配布、そして運用を開始いたします。今年度の12月末には、子ども達へアンケートを実施して、事業の中間報告という形にしようと思っております。

概要としては以上です。ご質問ありましたら、どうぞよろしく願いいたします。

#### ◎教育長

この取り組みについて考え方の部分と使い方の部分で、二面性があったと思いますが、何かご関心等あればお願いいたします。

#### ◎浅井委員

システム自体は大変画期的で、良いことだと思うのですが、例えば親に虐待されていることについての相談であったけれども、親がタブレットを見てしまい、逆効果になってしまう、そういった可能性は低いでしょうか。

#### ○学校教育課指導係長

掛川市の担当の方とも、かなりディスカッションしましたが、現状そういう事例はなかったと聞いています。

併せて、ここの最後に「送信」というボタンがあったかと思うのですが、このボタンを押すとその内容はもう残りません。ただ、「入力内容を一時保存する」というボタンを押せば、途中までのところが残ってしまうので、浅井委員が仰るようなことは、起こりうるかもしれません。

なので、そのおそれはありますが、リスクよりもメリットの方が高いと判断しております。

#### ◎浅井委員

保存のところを押してしまうと見られる可能性がある。だから、例えば説明する時に、もし親に知られたくないのであれば、送信画面まで一気に進んだ方が良くいと説明するのも良いかもしれません。

#### ○学校教育課指導係長

校長会の折に、浅井委員に指摘していただいたことも含めて、周知したいと思います。ありがとうございます。

#### ◎教育長

その他、どうでしょうか。

保護者という立場から、何かご意見等ありますか。

#### ◎田村委員

失礼します。

システム自体は、本当に誘導されながら進んでいくので、もし何かあった時に相談事をしやすいと、私も感じました。

あと、子ども達が発してくれたSOSに対して、やはりスピード感も大切だと思う一方で、今後各学校で適切に対応する、その対応の仕方というのがすごい大変になってくるかと思えます。学校だけでは本当に担い切れないようなことだったら、ぜひしっかり他の機関と連携していただきたいと感じました。

#### ○学校教育課指導係長

ありがとうございます。

私も学校現場にいた時に、毎月、少なくとも学期に1回は生活アンケートというものを採ります。「いじめられていませんか」とか、「お家で辛いことはないですか」という内容について採るのですが、子ども達はほとんど書きません。特に学年が上がるに従って、アンケートを書いている鉛筆の音が聞こえるだけでも、「あの子が何か書いていた」ということが分かります。

アンケートを採るけれども、あまり機能してないというところがあるので、まずはそういう子ども達も救えるシステムということで、今回導入しており、幅広く声を拾えるという面では、大変有効だと思っています。

学校の先生はSOSを教えてもらい、分かったら、一生懸命対応しようと思います。

ただし、仰るように対応の仕方というのは、慎重にいかないといけないところもありますので、それもまた併せて、そういった対応の仕方の研修は、生徒指導部会等でしっかり行わなければならないと思います。ありがとうございます。

◎教育長

他にございますでしょうか。

別の質問ですが、児童生徒からのアンケート調査というのは、いろいろなケースがあると思いますが、こういった形で処理するというのは、非常に集計だったりも、スピーディーにやれるのではないかと思います。そういった形での活用実態というのは、今現在ありますか。

○学校教育課指導係長

タブレットを使ったアンケート調査は、宇和島市内の学校で行っていないと思います。紙媒体のアンケート調査です。

◎教育長

ありがとうございました。

◎弓削委員

学期毎にアンケートを採ると言われていましたが、それは今後も続けられるのでしょうか。

○学校教育課指導係長

それは並行して続けます。

◎弓削委員

ありがとうございます。

◎教育長

他にございますでしょうか。

◎全委員

－特に質問、意見等なし－

◎教育長

なければ、報告事項の3つ目に移りたいと思います。

新伊達博物館基本設計の説明会について、お願いします。

○文化・スポーツ課長

7ページをお開きください。

6月定例会で皆様にご説明した、ほとんどそのままの形ですが、基本設計の説明会を2番の日時と場所で開催をいたしました。合計230名の方に来ていただいたということでございます。

内容につきましては、先程も教育長報告にございました通り、8月7日は隈研吾建築都市設計事務所と丹青社の担当者、そして13時半からの昼の部は隈研吾氏自身にも、来ていただきました。その時は、84名の参加がありました。

隈研吾氏からは、都市の居間のような心地良さと街に開かれた建物であることを

重視したこと、丹青社さんからは、展示について宇和島を誇りに思い、自慢したくなる歴史文化と観光の拠点を目指すという説明がありました。

事業費概算につきましては、申しました通り、総額45億円を今見込んでいますが、今後の物価上昇などで変動も予想されます。

維持管理費については、今後の管理体制を決定して精査していきますということでした。少なくとも面積も広がりますので、高くなるとは思いますが、できるだけ削減を目指していきますということでした。

質問や回答は、パブリックコメントを今月末まで募集しておりますので、それと併せてホームページでお見せすることになります。

住民投票条例案を提案された「キリン公園を守る会」の方々が毎回来られて、同じような質問をされておられました。設計に対してのご意見の中には、共鳴をされた方もいらっしゃいまして、楽しみにしているというようなご意見もいただいております。今後の維持管理の話や展示設計の要望等もありました。

いずれにいたしましても、併せてホームページの方でお知らせするというので、速報としてのご報告をさせていただきます。

補足がありましたら、部長からお願いいたします。

#### ○教育部長

会場に直接おいでいただいた教育委員の方々もたくさんおられまして、ご足労いただき、ありがとうございます。

今ほど説明があった通りではあるのですが、これをもって基本設計部分についての周知、説明は一旦区切りとさせていただき、実務的な作業としては来年春を目指して、実施設計の段階に入っていきます。

同時進行で、今程もお話がありましたけれども、運営体制をどうするかとか、維持管理費の精査であるとか、工事発注に向けての準備だとか、そういった作業を進めて参ります。

また、隈研吾建築都市設計事務所及び丹青社さんの主催によります、市民参加のワークショップ。これも年内に実施をしていき、またその場ですね、色んな気付きであったり、ご意見等々あったものは、当然可能な範囲の中ではありませんが、反映させていくということにもなってございます。

まだ実際の完成に向けてはですね、令和9年を予定しておりますので、少し先の話にはなりますが、今程ありましたように、できる限り市民の皆さんに愛され、誇りを持っていただけるような、良い博物館を造っていきたいと思っているところです。

教育委員の方々におかれましても、今後もまたご理解ご協力を賜りますようお願いを申し上げます、私の方から簡単ですがコメントといたします。

以上です。

#### ◎教育長

新伊達博物館基本設計説明会についての報告でした。

嬉しかったのは、2人の小学生が大人に混じって、説明会に来てくれまして、非常に前向きな質問もいただきました。

ワークショップの話もありましたけれども、関心を持ってくれるような次世代が、ここから先加わってくれれば良いなと思います。

ご質問等あればお願いいたします。

◎全委員

ー特に質問、意見等なしー

◎教育長

それでは、4つ目の“説明及び報告事項”について、人権啓発課長からお願いいたします。

○人権啓発課長

8ページをご覧ください。

人権教育総合推進地域事業研究発表会のご案内でございます。

令和2年度から3年間、文部科学省から地域指定を受け、三間地域において、学校教育と社会教育が連携し、人権課題の解決に向けて研究と実践を進めて参りました。今年度は3年間の最終年度に当たり、研究成果の発表会を行います。その日程が決まりましたので、ご案内とさせていただきます。

開催期日につきましては、令和4年11月22日火曜日、愛媛県教育委員会及び宇和島市教育委員会の主催で開催いたします。

当日の日程といたしましては、午前中は二名保育園、三間小学校、三間中学校、北宇和高等学校三間分校、宇和島市農村生活文化ふれあい交流館において、分科会を行います。

そして、午後からは、コスモスホール三間において、全体会を行う予定でございます。

また、詳細につきましては、10月に入りましたら、ご案内させていただきますので、ぜひおいでいただけたらと存じます。

人権啓発課からの説明は以上でございます。

◎教育長

報告ありがとうございました。

ただいまの報告について、ご質問等あればお願いいたします。

◎全委員

ー特に質問、意見等なしー

(5) その他

◎教育長

特にないようでしたら、“その他”に入りたいと思いますが、事務局の方で何かあ

りますか。

#### ○文化・スポーツ課長

9ページです。インターハイが終わりましたので、皆様にお礼と併せて報告をさせていただきます。

日程につきましては、7月29日から8月8日までの11日間で行いました。男子の競技が始まって、その次女子という順序でございます。約1,700人が、選手・監督、役員・スタッフ、として参加しました。

新型コロナウイルス感染症の感染防止対策も徹底しておりましたが、選手も含めて一部関係者等々が、欠場を余儀なくされたということもございました。あとは大きな問題はなくできたということでございます。

成績等につきまして、男子は、愛工大名電が団体6連覇、また鈴木選手は3冠を達成したということであります。

女子に関しましては、団体の部は四天王寺高校が9連覇ということでございます。地元の宇和島東高校も団体戦で嬉しい1勝を挙げました。

いずれにしましても、高校生の最後まで諦めない姿が見れて、感動的な部分もあったという報告です。

高山委員、何かありましたらよろしくお願いします。

#### ◎高山委員

本当にお世話になって、成功しました。ありがとうございました。

それとお知らせだけしておきます。

女子シングルス優勝の赤江選手が、3月の宇和島市長杯の卓球大会の高校一般男子シングルスの部に出場していただいて、優勝されています。もう1人、リベルテの由本選手も宇和島市長杯に来ていただいて、今回3位入賞をされました。

宇和島市長杯も少し格が上がって、卓球協会も盛り上がりました。

ありがとうございました。

#### ◎教育長

こういった有名な選手と交流を持てた地元の選手も、また大いに動機付けられたと思います。ありがとうございました。

次、お願いします。

#### ○文化・スポーツ課長

続きまして、お知らせでございます。

2年前から企画をしながら、ずっとコロナ禍で見送っておりました、第4回清良記シンポジウム「清良記と大森城跡―三間の中世世界を考える―」を9月23日に今のところ行う予定でございます。新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響が心配ですが、基本的には大声を出したり、飲食を伴うものではないので、感染対策を実施してやりたいと思っております。

企画は、鬼北の文化財利活用戦略会議と申しまして、宇和島市・鬼北町・松野町

で、担当者や学芸員等々が作っております、地元の歴史を掘り出して、活性化に繋げようというものの一環でありまして、今回三間の清良記がクローズアップされまして、それに研究成果、現地確認等も伴うシンポジウムということです。ぜひよろしければ来ていただいたらというふうに思います。

以上です。

◎教育長

ただいま清良記の件についての説明が終わりましたが、ご質問等あればお願いいたします。

◎全委員

－特に質問、意見等なし－

◎教育長

よろしいでしょうか。

それでは事務局の方から用意していた話題については以上です。

本日は議決事項がありませんでしたので、説明や報告が中心になりましたが、委員の方々から何かありますか。

◎高山委員

愛媛県がB A. 5の医療危機宣言を出したことにより、総合体育館の大広間、スポーツジム、卓球場、そして剣道場はどのようにされますか。

○文化・スポーツ課長

ちょうど今程、ホームページにもアップしたところでございますが、9月16日までの間は、新規の予約を受け付けないということが基本でございます。

アリーナと剣道場、柔道場については、ほとんど予約をされている方しか使えませんが、日々使います、その予約という概念のないプールやジムなどは、多ければ入場制限も必要ですが、通常そういうことはないのです、基本的には当日来ていただければ使っていただく予定で広報をしております。

卓球につきましては、基本的にその場で卓球台を個人的に使うということですので、使用できますが、今後9月16日まで新たにアリーナを使う卓球の練習等々は、ご遠慮いただくというスタンスでございます。

◎高山委員

すると、卓球場は行けば使えるということですかね。

今度、ねりんピックのプレ大会が10月2日にあるのですが、今選手をやっと集めたところで、ラージボールを使うので、普通の卓球と全く違います。ラケットなどを今全部準備して、これから練習をしないといけないので、そのための確認でした。

それと、公民館についても1つ聞きたいのですが、今まで予約している方は、練習ができますか。

○生涯学習課長

既に予約いただいているグループに関しましては、来ていただくことは大丈夫です。問題ございません。

◎高山委員

ありがとうございました。

◎教育長

他、ありますでしょうか。

◎弓削委員

学校での新型コロナウイルス感染症の陽性者とか、濃厚接触者の子どもさんに対する対応なのですが、今は陽性者になったり、濃厚接触者になっても、体調不良で休んでいるという言い方をされていると思います。

でも、これだけ新型コロナウイルス感染症の感染者も増えてきましたし、濃厚接触者も増えてきて、やはり1週間や10日も休んでいたら、感染したのではないかと、周りで思う子もいるし、親同士が繋がっていたら親から聞いて、感染したみたいと知っている子もいます。

そんな時、インフルエンザの時みたいに、新型コロナウイルス感染症に感染したけど、みんなも手洗いや消毒をして、マスクもきちんと着けて気を付けようねという形には、2学期もやらないのでしょうか。

○学校教育課長

実は県の方針に従いまして、個人情報保護という視点から、学校から陽性者が出たということを行うことはできませんので、感染拡大防止のためという形で、保護者の方には、今ご理解をいただいているところでございます。

○教育部長

少し補足しますが、もうそんなの分かっているのにというのが、実際は実態だと思います。

SNSであるとか、或いはお友達とのグループLINEであるとか、情報が飛び交っているんだろうなというのを、私どもも承知はしておりますが、今ほど学校教育課長からお答えさせていただいたように、少なくとも教育委員会或いは学校現場から、例えば何年生で陽性者が出たとか、あの子が濃厚接触者になったとか、という情報は一切発信しないというルールの中で、運用しておりますので、感染拡大防止のためという言い方で統一をさせていただいてるところで、そこはやはり県教育委員会の指導の下というのがございますので、ご理解をいただけたらと思います。

◎弓削委員

ありがとうございました。

多分2学期が始まっても、先生方を始め、学校は大変だと思うのですが、またよろしくお願いします。

それともう1つ、学校の支援員をされてる人に、学校で新型コロナウイルス感染症の感染者、濃厚接触者が出た場合に、そのことは先生達の間だけは分かっている、

支援員の方に伝えていないと思うのですが、それはなぜでしょうか。

○学校教育課長

学校では、基本管理職が情報管理をするという形になっておりますので、他の職員、教職員も含めて、知らない場合があります。この点についても、個人情報を保護して、情報が拡大しないように、なるべく管理職で情報を管理するという意味がありますので、そこもご理解いただいたらと思います。

◎弓削委員

支援員の方は、子どもと接触することも多いと思うのに、なぜ伝えないのかなと思ったというのがあります。

◎教育長

情報の取り扱いについて、今後も理解が得られるよう、学校の中でも再度周知が必要かもしれません。

他にございますか。

◎全委員

ー特に質問、意見等なしー

◎教育長

次回の定例会の日程については、会議室の都合で、別途改めて調整ということにさせていただきますと思います。

(後日日程調整により、教育委員会9月定例会を9月30日に開催することを決定する。)

(5) 閉会宣言 (午後4時57分)

◎教育長

それでは以上もちまして、8月定例の教育委員会会議を閉会いたします。